

第6回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 令和2年11月25日(水) 13:30~14:30

2 場 所 苫小牧市役所職員会館3階 304会議室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

秋山委員、伊藤委員、遠藤委員、太田委員、尾崎委員、須田委員、
高橋委員、坂本委員、平井委員、吉川委員、渡辺委員

※西山委員、多田委員、綿貫委員は欠席

(2) 事務局(市)

産業経済部 : 金谷部長

産業振興室 : 白川室長

企業政策室 : 早崎室長

商業振興課 : 小泉課長、新田主査、長谷川主査、朝倉主事

工業・雇用振興課 : 木澤課長、齋藤主査、今井主事、小野寺主事

4 概 要

(1) 開会

・苫小牧市中小企業振興審議会開会(委員14名中11名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている)

・高橋会長より、この一年の状況を鑑みると新型コロナウイルスの影響について言及していかなくてはならないと考えるため、皆様方に様々な意見を頂戴し、慎重に審議していただきたい旨、挨拶。

(2) 議事

① 第5回各部会の報告等について

(ア) 創業促進・事業承継部会 遠藤部会長より。

●新型コロナウイルス感染症の影響について意見交換。

●創業サポート補助金のセミナー受講者が、今年は例年より多かった。

⇒創業者が集まれるような支援センターがあったらいい

人や情報が集まるコミュニティ形成が出来る。

●産学官金、学生、女性問わず、何かやりたいという志がある市民をいろいろ集めてコラボレーションができればいい

⇒創業促進のみならず、街づくり・町おこしに繋がるのでは。

●市からの情報伝達の方法がまだ足りないのでは。

⇒プッシュ型の情報発信の必要性が重要

●ハード面において『創業支援センター』のような施設が出来たら、いろんなコミュニティが出来てきて良い

(イ) 人材確保・育成部会 秋山部会長より。

●ハッピーエンドの実現のために。

- ・育成の責任者をきちんとつけて育成し、目指す先輩が幹部社員であるといった目標の人がいることが良い。
- ・イメージ戦略が行き過ぎてしまうと、かえって入社後のミスマッチを生むことになるので、インターンシップを行い、イメージと実際のギャップを生じさせないような環境づくりなどをした方が良い。
- 求職者側の職場に対するニーズが変化しているにも関わらず、採用する企業側の考えや体制が変わっていない。雇用のミスマッチを防ぎ、ハッピーエンドを実現する為には採用する企業が変わらないといけない。
⇒個々の政策の中に求職者側と企業のミスマッチを埋めるような事業を盛り込むのが良いのではないか。

(ウ) 販路拡大・需要開拓部会 坂本部会長より。

- 審議会当日は欠席者が多く、10月14日に再開催を試みたが欠席者が多かったため、10月16日から28日の間で意見集約を行った。
- ブレーストーミングで洗い出した3点の課題に対する解決方法について。
 - ・補助金を活用し、市で行った事業を会員へのインタビューで会報誌やホームページ等で記事を紹介し、とまサポ等で周知・共有を図っていく。
 - ・創業サポートのような企画として当初より複数回実施することや、フォローアップができる専門家とセミナー後に協力を仰げる仕組みづくりを進めていく。
 - ・プログラムの主体が行政か民間かで条件設定が大きく変わると、ある程度ターゲットを絞って事業を行っていくことで事業者がそのターゲットからステップアップすることやその段階に自力で上がって来ることを促す為の計画作成等フォローする仕組みを作りたい。
- 次期の部会や審議会に関するまとめについては、議案の中で皆さんに審議をお願いしたい

-----質疑なし-----

② 第4期審議会報告書（各部会）のまとめについて

- ・事務局より、各部会における活動結果のまとめ(案)（資料1）について提出。ブレーストーミングにて、各部会で洗い出した課題点、問題点等の解決手段を議論してきた結果とあわせて、計画の中には織り込めないコロナの影響を別項目にて今後の検討事項としてまとめていることを説明し、内容チェック、確認、意見を求めた。

-----5分ほど内容確認し、質疑-----

-----質疑なし-----

○高橋会長

本報告書は次回審議会にて最終案として提出するので、再度本日の部会にて確認していただきたい。本日の部会のまとめから、今年度の審議会として最終的な

結論と、次回の期にそれぞれの部会で何をやっていくのか、ある程度明確にしていきたい。

③ 新型コロナウイルス感染症拡大による影響と審議会のまとめについて

○高橋会長

コロナの影響というものはやはり無視できないところであり、報告書の中でも言及してはおりますが、昨今のことも踏まえて皆様方の方からなにかお気づきの点があればお話しを頂きたい。

―――意見なし―――

○高橋会長

この場にてすぐ出ない事は、部会にて話す機会を設けたい。審議会のまとめに関しては、コロナの影響も踏まえ、皆様方の意見と今までの議論を統括する。

共通しているのはICTの活用がどの分野も必要になるという意見と、会社外での異業種コミュニティや、困った時に相談が出来たり、仲間が集まってみんなワイワイ話し合えるそのようなコミュニティが形成できる場所が必要という意見。

本年4期の審議会に関しては岩倉市長より「行動する審議会」として諮問を頂き、とまサポの開設や先進都市の視察報告等、これからの課題をブラッシュアップし、その解決方法に至る議論を積み重ねてきた。今後何をどう考えていくか行動していくか、ある程度の指針を定めることがこの第4期の落としどころと考える。

多くの中小企業者は、コロナ感染症や震災のような非常時に生き残りを図りたくても、なかなか自らの力だけで経営課題を解決していくという事が難しい現状がある。経済センタービルには、中小企業相談所とC-base等があるが、中小企業相談所は中小企業診断士や税理士、社労士等、金融に関わるサポート、C-baseはものづくりに関わる工業系の相談がメインとなる場所である。

事業者が距離を超えて取引先を見つけたり事業のパートナーというものを見つけたり、大型のショッピングサイトにない地元の商品などを全国に販売していく等のイノベーションやネットワーク作りに関する相談が出来る場所があると、販路拡大や需要開拓にもつながり、現存の苫小牧市の企業価値が上がると考え、構築されたネットワークを活用して新規創業希望者にも支援が出来る環境を作る事が出来るのではないかと考える。

私の意見として、コロナの影響で非対面型ビジネスが主要なる流れに対応できるICTやIoTを活用した事業を展開すること、事業に熱心な中小企業者がいつでも営業や商品、販路の相談ができる場所の設立が必要であると考えます。

皆さんはどのようにお考えか？

○須田委員

会長の意見に同意。特にICT・IoT情報系の創業がこれからキーになる。大企業の人やメーカー系の人と話すと、身近にICT・IoTが使えるような人材、小規模な会社、そういった小回りが利く会社の存在が苫小牧にないかと言う

相談が多くある。全て自社の中に維持するのは難しいので、身近な東京からではなく、身近なところに小回りの利く起業家の情報があれば欲しいという状況。

この話は大企業に限らず、地元の商品、販路開拓にもICT・IoTの力がこれから必ず必要。なので、小回りの利く情報関連のエンジニアもしくはそれに関するコンサルタントのような方々が活躍できる場所を増やせないものかと考える。

創業促進・事業承継部会の方でもそういった方が集まれる場所を置きたいという話をしている。こういう物を売りたいんだけど、どうしたらいいだろうかと言ったようなことが気軽に集まれる場所がますます必要性が増してくると考える。

○太田委員

コミュニティでもオンライン上だけではなく、話す機会があると、話が弾んで色んなアイデアが湧き、さらに別の仕事の話が出たりとか、一緒にやろうとか、コラボが生まれてくると、新しい業態が生まれてくる可能性は大いにあると考えるので、場所はあるといいなと思う。

○秋山委員

商店街においては、ここ1～2年くらいに商店街で約7件ほどの新規起業のうち、5か所が女性起業家によるものという事で、女性が積極的に社会に関わって来ているのは実感する。

一方、無理をしないような起業の在り方、自分の出来る範囲という形で新たな融資を受けない形で手持ちの資金で行っていく考え方だと、軌道に乗らなければその時点で廃業してしまうという側面もあると思う。なので、どういう形でサポートしていけるのかという事が、一つの課題になると思っている。

○平井委員

審議会の第4期まとめの考え方、方向性というのは間違っていないと思う。ICT・IoTを使える人材が周りにいないという事で、そういった業態の人材・起業家・事業者等、そういった能力を持った人材が傍にいればいいというのはもっともかと思うし、色んなコミュニティを作りたいと言うご意見についても異論は無い。

ただし、何をやるにしても専門家の知識が必要だろうと考える。法令での制限等の壁が出てきた時、その分野の専門家の方々の知識を得られるような物を作っていければと感じた。

○渡辺委員

市内の企業と市内の高校生をマッチングして、苫小牧にある企業の事をもっと知ってもらい、企業の課題を子供たちの考えで何か解決できないかという取り組みを進めるため、私の知人が合同会社を立ち上げた。

高校で実施するインターンは、学校が主体で受入先を探しており、なかなか裾野が広がらず、苦労されているようなので、インターンの窓口としてその会社を利用する等で様々な出口を探していける。

総合経済高校のマーケティング部といろいろな取組を行っているが、ある優秀な生徒が苫小牧に残りたいと話があったものの、希望の職種に該当する企業が無く苫小牧を出てしまった事がある。優秀な人材を外に出さない為には苫小牧として受け入れる土壌が必要で、その会社を作る決意をされたのだが、コミュニティ

というところで同世代・同性で集まることも大切なのもかもしれないが、幅広い世代で意見交換できる素敵な場所が出来て、苫小牧で子供たち、青年たちを育てる環境となれば良いと考える。

○高橋会長

本件については、最終的に事務局のまとめ案を調整し、次回の審議会にて全体のまとめとして提出できるように進め、どんな方法で提起したものを進めていくか、5期に引き継ぐ形で報告書をまとめたい。

(3) 報告

① 小規模修繕工事契約希望登録制度について

・事務局より、資料2に基づいて制度内容、課題、及び2月に苫小牧地区技能士協会の協力のもと実施したアンケート結果について報告した。

○高橋会長

小規模事業者にとっては直接受注機会の増大に繋がるが、全体の発注量増加にはならず、多くの事業者に満遍なく行き渡らない課題がある。今後動きがあり次第報告いただき、制度の必要性について考えていきたい。

-----質 疑-----

○平井委員

これは導入をするという前提なのか、制度があるという紹介なのか。

○事務局

導入を前提という訳ではなく、中小事業者の受注機会の拡大という面から、導入している自治体もあるので、本市としても他市の状況確認しながら検討を進めていきたいと言う段階。

② 創業促進イベント開催 (Startup Weekend Tomakomai) について

・事務局より、資料3と参考資料に基づいて、事業の目的、背景、期待される効果、概要、開催日及びコロナウイルス感染症対策について、報告した。

○高橋会長

各地の取組が進んでいる背景と、先ほどまで議論していたIoTとかコミュニケーションを作る新しいやり方・手法というものが提示され、新しい起業の取り組み、またその取り組みが進めば苫小牧市が面白い地域だとして認められて人が入ってくる等、様々なプラスの要因が生まれ、可能性を非常に感じる事業だと捉える。

○須田委員

高専が後援という形で入らせて頂いて、周知、運営を手伝って行くつもり。ただ懸念するのがコロナの関係で、本校はレベルは関係なく、遠隔授業になってしまった時に生徒を出せないことになってしまうので、今の状況が最悪の状況から

いで2月後半を迎えると、なんとか生徒を5人、10人という形で参加出来ると考えている。

ターゲットで学生、起業希望の主婦の方、若手社員という方々と本校の生徒をうまく結び付けて、新しい事業・ビジネスモデルみたいなものが出来たらと期待するし、逆にニーズを社会人の方からアドバイスも頂きながら、課題解決に当たりたい。

○高橋会長

皆さんの意見を伺いながら事務局と事業を進めていけたらと考えている。

(4) その他

- ・会長より、審議会終了後の各部会開催場所及び次回の審議会を令和3年2月17日13:30から開催する旨の報告があった。

(5) 閉会